

長野東ロータリークラブ2024-2025地区補助金事業

インターアクト&学生によるインバウンド客への
「まち歩きガイドMAP」配布事業
“HELLO NAGANO”
報告書



第5回「まち歩きガイド」配布プロジェクト スタート

長野東ロータリークラブ

- 開催趣旨
若者が地域で活躍できる場をロータリーとして整備し支援する（おもてなし、観光案内、異文化交流、地域活動参加）
- 主催
長野東ロータリークラブ
担当：青少年奉仕委員会
- 後援
長野市中心市街地活性化協議会、文化学園長野中学高等学校、長野県立大学他
- 開催スケジュール（2024-2025）
3月 6日（水）企画書・補助金申請（理事会、関係者）
3月16日（土）事務局キックオフ会議（RC関係者、文化学園長野IA部顧問）
4月 3日（水）クラブフォーラム「実施説明・討論」
4月10日（水）事務局会議（RC関係者）
6月15日（土）第1回まち歩きガイド“HELLO NAGANO”
8月17日（土）第2回まち歩きガイド“HELLO NAGANO”
10月13日（日）第3回まち歩きガイド“HELLO NAGANO”
12月 7日（土）第4回まち歩きガイド“HELLO NAGANO”
2月15日（土）第5回まち歩きガイド“HELLO NAGANO”
3月26日（水）事務局クロージング会議（RC関係者）

2024年6月～2025年2月までの間、インバウンド向けに「まち歩きガイド」配布を5回実施しました。



2024年6月15日 ABNニュース

- ・ 第1回 6月15日（土）中学生5名 高校生15名 先生3名 RC7名

第1回は、最初ということもあり文化学園長野中学高等学校インターアクト部20名＋先生



3名が参加。インバウンド客を求めて善光寺界限と長野駅周辺で探したが少なく、ガイドマップを渡す機会も経験も少ない結果でした。

中学生の声

- ・ 会話まではできなかったが、2組にパンフレットを渡すことができ良かった。英語は大切だと思った。
- ・ 外国の方が意外と少なくビックリしました。話しかけることは、とても勇気がいることななだと思いました。外国の方なのか日本の方なのか、見分けることが難しかった。外国の方をたくさん呼ぶためには、長野市ならではの何かを作ることが大切なのかなと思いました。
- ・ ちゃんと英語が伝わるのか不安で積極的に話しかけられなかったが、話してみると相手がゆっくり話してくれて助かった。



高校生の声

- ・会話をもう少し続けられるように頑張りたい。フレーズを覚えたい。
- ・今までボランティアは何回か迎えましたが、街中に出て歩きながら活動は初めてでした。英語が話せないこともあって積極的に自分から話しかけられなかった。反省です。またどの方もすんなりもらってくれるものだと思っていたので、“No!”と言ってもらわない人もいる現実があつてビックリでした。
- ・長野駅で声をかけた家族の方たちに“Nice English”と褒めてもらい、私たちの気持ちが伝わったんだと思い嬉しかったです。



わったんだと思い嬉しかったです。言語が違えど伝えようとする気持ちが大切だということを学びました。

- ・外国の方が優しくて安心しました。もっと話せるように英語の勉強を頑張りたいと思いました。

- ・話しかけるのは緊張したけれど、海外の方が笑顔で話を聞いてくれて嬉しかった。

- ・合計4組の方とお話できて、初めての体験だったのでとても新鮮でした。最後に“Have a Nice Day!”と言ったりして工夫して笑顔で会話することができまし

た。英語で話しかけることは緊張しますが、もっと長野のことや日本のことに興味を持っ



なかなか言葉が出てこなくて難しかったが、写真も撮れ明るく接することができたので良かった。

先生の感想

・生徒と一緒に「全部配り切るぞ！」という意気込みを持って取り組みましたが、思ったよりも海外の方がいなかったのを探す

のに一苦勞でした。しかし「どこに行けばいるのか」「どのような言葉で話せば受け取ってもらえるのか？」と常に生徒とアイデアを出しながら行動しました。このように考えることが相手の立場に立って考えること、そして異文化理解にもつながると感じました。国は違えど相手は私たちと同じで「これを伝えたい！！」という想いが相手に伝わり人を動かすことができると思いました。

アジア人の方も多く、生徒から「日本人かもしれないから声をかけられない」という声もありました。様々な国から来ているため、見かけで判断することが果たしてよいのか考えさせられました。

・インバウンドの方を探す際、どうしても見かけの判断しかできないことに少し葛藤があり



りました。生徒の中で「外人」という言葉を使った瞬間が目立った。

・残念ながら善光寺方面では外国の方にお会いできなかったため、長野駅方面の方がよいかも！。アジア系の方には声かけが難しいため、逆に声をかけてもらえるよう9分が必要かも？

てもらえるように、次回の活動に反省を活かたいと思いました。

・しっかりした文法じゃなくても伝わって嬉しかった。

・3年生の先輩が英語で話しかけているのを見て、とても勉強になった。ご夫婦に声をかけたらとても喜んでパンフレットを受け取ってくれて嬉しかった。いざとなると



RCメンバーの声

・6月のシーズンはインバウンドの方が非常に少ない。駅観光センターには情報収集のインバウンドの方が多かったのですが、次回8月には駅からスタートもよいかもかもしれません。グループリーダーから「まち歩きガイド」のサインカード、もしくは一目でわかる腕章のようなアイキャッチの効果があるものを身につけたらどうか、というアイデアがあった。次回に向けて改善していきたい。

・とても積極的に声がけをしていました。ガイドブックを渡せた場面と受け取ってもらえない場面がありました。道に迷っていた観光客を案内できていました。「どこから?」「何しに?」「職業は?」まで話せばOKですね!。MAPを渡すことよりも、コミュニケーションをとるといふ目的は素晴らしいです。学生たちがとても積極的なので、このプログラムを今後さらに深められると思います。

・外国人が意外と少ないため、接点が持てなかったことは残念。次回は人流を事前に確認して時間帯も工夫したい。

- ・ 第2回 8月17日 (土) 中学生4名 高校生1名 先生1名 RC8名

前回の反省からRCの腕章を腕に巻いて実施。とても暑い時期なので熱中症に注意を促し

ながら実施。ただインバウンド客は前回同様少なく、善光寺界隈より駅周辺にシフトした。



中学生の声

・前は善光寺方面に行って外国人に声をかけたが、今回は長野駅周辺に行ってガイドブックを配布した。今回もあまり外国人がいなく、ガイドブックを減らすことが難しかったが、声をかけた人はとても優しい方ばかりで受け

取ってくれた。またやるなら今度は違う場所でリベンジしたい。

・前回の反省を生かして長野駅を中心に回っていたけれど、長野駅にもあまり見かけなかったことから、この時期には訪問客が少ないことがわかった。外国人が居てもこのあとどこかへ行く人など滞在しない人も多かった。

・外国人の人と話すのは難しかったが、前回より話せたのは良かったです。

話すスピードが速くて聞き取りにくかった。もっと自分の力で話せるようになりたいと思いました。次回はもっと積極的に話せるように頑張りたいです。

外国の方は、帰りの方が多かった。

・前回よりパンフレットを多く渡すことができたので良かったです。善光寺ではなく、長野駅の方が外国人が多く感じました。暑い長野でも外国人はいる！アメリカではなくフランスから来る人もいました。話すのが怖かった。次回は10冊目標に、長野駅や善光寺、街中でやっていきたいです。



先生の感想

・前回同様長野駅での配布を行いました。海外の方はそれほど多くないように感じました。前回の反省を生かしてアジアの方にも声をかけてみましたが、もともと長野に住まれている方もいて、話してみるまでわからないと実感しました。何事も見かけやバイアスを持ってはいけないと改めて感じました。

生徒の様子を見てみると話しかける前は少し緊張しているようでしたが、話してみると相手に質問を投げかけていたり、自分のことを伝えていたりして積極的にコミュニケーションを図ろうという姿が見られ良かったと思います。英語の授業だけでは学べない英語話者の空気感や伝わらないもどかしさを感じ、これからの英語学習に繋がる機会になったと思います。

RCメンバーの声

・長野駅改札で新幹線を降りた方たちを出迎えてみました。到着したタイミングなので挨拶したり、案内パンフレットを渡すと快く応じてくれました。受け取ったパンフレットが役に立ったか、その後のことが気になりました。

・急ぎ足の人より立ち止まって考えている方の方が、声をかけた時に話を聞いてもらえた。長野駅・善光寺以外の場所もルートとして考えても良いと思う。例えば、パティオ大門やかるかやさん西光寺など。

・外国人観光客が少ない時期だった。まず声をかけるタイミングの勇気が大切。外観だけではどこの国の方かわからないので、「Where are you from?」は必須。事前にどんな質問をするか予習をしておきましょう。MAPを開いて渡しましょう。



- ・ 第3回 10月13日（日）中学生2名 高校生4名 先生1名 RC5名
初めての日曜日開催だったこともあり、インバウンド客は 駅周辺でもまだまだ少なく感じた。

中学生の声

- ・ 思ったより長野駅にいる外国人が少なかった気がする。また長野市に住んでいる方に話しかけてしまったので、「長野市に住んでいますか？」などはじめに聞いてみても良いかと思った。今回参加が少人数だったので、もう少し話せるよう努力をしていきたい。
- ・ 最初は怖くて話しかけられなかったけれど、途中からガンガン話しかけられるようになった。意外と話しかけるとちゃんと話を聞いてくれて嬉しかった。長野電鉄で困っている方にチケットを買ってあげた。

長野駅で話しかけてもらってくれる人と、もらってくれない人の割合が半々だった。長野市から出てしまう人や急いでいる人はいない。売られてお金を取られるじゃないかという恐怖もあるっぽい。

次回はパンフレットを持ちながら無料です、お金はいりませんということをしっかり伝えたい。目を見て笑顔で！断られても大丈夫、運が悪かっただけ！会話のために自分のオススメを伝えてみようと思う。

高校生の声

- ・ 今回は外も歩き易い気候だったので、外国人に出会う回数は以前より増えた気がした。前は決まったフレーズのみで会話し、すぐに話が終わってしまうことが多かったが、今回はその人に合わせて話をしたり店を教えたりできて、話す時間が多くなったと思うので良かった。特に断られることもなく、みんなガイドブックを喜んでもらってくれたので良かった。英語も少し褒められた。

外国人が歩いていても躊躇ってしまう時があったので、より社会的に見つけたらすぐ話しかけられるようになりたい。話すことができても相手の話していることがわからなかったり反応が遅くなってしまうことがあったので、英語の表現を身につけたり、もっとリスニング力を高めていきたいと思う。外交人の方は毎回とても優しく対応してくれるので、変わらず笑顔でより緊張感を抜いて、楽しく話すのが一番だと思った。



・前回よりも多くの外国人に会えた。新幹線で帰って今いそうだったり、荷物をたくさん持っている人たちに話しかけるのは良くないことがわかった。本当に色々な国の出身の方たちがいて、皆優しくかった。

もし何か困っていたら、「May I help you?」、「Shall I show you around?」などの声がけをすることも大切と感じた。まだやはり自分から声がけするのは緊張するし、チャンスを逃してしまうこともあったが、とにかく笑顔で話題を広げたり案内したりすることができたので、しれらが成果として上げられるかなと思う。

次回以降が冬なのでスキーをしに行ったりする人が多いと予想されるので、バス停までの行き方や電車の種類などを覚えておけば良い会話ができるんじゃないかと思います。次回はもう少し色々なフレーズを覚えて、行っていることが少しでも理解できるようになったらいいなと思います。また勇気を出してより多くの外国人に声をかけたいです。

・前よりも多くの外国人に話しかけることができた。前は断られることがなかったけれど、今回は数回断られて少し心が折れた。それでも拙い英語をよく聞いてくれた方もいて、ガイドブックをもらってくれた時はとても嬉しかった。「Have a nice day!」と最後に言うと、返してくれて嬉しかった。

・初めての参加だったが、先輩と協力して色々な方に話しかけることができたと思う。自分から話しかけるのはやっぱり怖くて勇気が出ずに何人かスルーしてしまったのが今日の反省点。自分から知らない人に話しかけるのが怖くて話したいと思っても、足がうまく動かなかった。「外国人=ちょっと怖い」という自分なりのよくわからない固定概念にとらわれてしまったことが原因なんだろうと思う。「もし無視されてしまったら...」とか「睨まれてしまったら...」とかネガティブな方向に思考がどんどん転がってしまったことも原因なんだろうと思う。

次回からは余計なことを考えず、とにかく話しかけられるように頑張りたい。気がついたことは、自分の思い込みで外国人はそんなに強くないこと。勇気を出して一歩踏み出して外国人と話せるように頑張ろうと思う。

先生の感想

・1回目よりも2回目、2回目よりも3回目とどんどんとレベルアップしているように感じた。1回目、2回目はガイドブックを渡すことがメインであったが、3回目はコミュニケーションを図り、会話を続けようとする姿勢や自分から質問をする姿もあり、生徒の成長を感じた。最初は話し掛け辛いオーラを出していた方もいましたが、話してみると優しく受け取ってくださったり、英語で褒めてくださる方も多くいて話しかけて良かったと思える場面がたくさんあった。このような体験を積むことでモチベーション（英語学習への）が上がるので、英語を話す機会をより作り出したいと感じた。

事前に話し掛け方やフレーズを確認したり練習することで、言えるフレーズが植えてきたので次回12月に向けてさらに練習していきたい。

RCメンバーの声

・反省会を1テーブルで囲めたので、なんて話しかけているか他の人たちの話を一緒に聞いた。12月、冬の季節長野に住んでいる学生ボランティアですが、すき焼き鍋がオススメですなどPRしてみるのもどうか。

・3連休の気候の良い日に開催したこともあり、外国人観光客が多く高校生のみなさんも最初は声がけしにくいように見えたが、途中からは自分たちから積極的に英語で声がけし会話を楽しんでいた風景も見られ外国人に取っても高校生に取っても非常に素晴らしい事業であると感じました。コミュニケーションの重要性を改めて感じました。

パンフレットに記載されている内容だけでなく、長野の素晴らしさを外国人に伝えることで、高校生も自分たちが暮らしている街を改めて知る機会にもなるため、そのようなコミュニケーションにも挑戦して欲しいと思った。

・子ども達は自ら進んで話しかけに行くことができていた。英語のハードルだったり恥ずかしさを乗り越えて良いチャレンジをしていた。1回できると次の声がけは楽しそうにしている良かった。道案内や困っている人に声をかけてサポートしてあげると喜ばれた。

- ・ 第4回 12月7日（土）中学生6名 高校生8名 先生1名 RC5名

いよいよ冬本番の季節。街中にもインバウンドの方をよく見かけるようになってきたので、前回まで3回の活動で得た反省を踏まえて、いざ実践！



中学生の声

・初めての活動だったけど、ちゃんとやり終えることができて良かった。でもあまり私は話し掛けて渡すことができなかったから、次回は話し掛けられるようにしたい。次回に向けては話し掛けられるようにすることと自信を持つことです。

・善光寺よりも長野駅の方が外国人が多かった。冬なのでスキーなどで白馬や野沢温泉などに行くような感じの外国人がいた。もう少し英語で話せると良かったので次回頑張りたい。

・初めて参加してみて、外国人と最初は勇気が出なかったけれど、1回成功してみるとたくさんの人と話すことができた。

パンフレットを渡すととても喜んでいて嬉しかった。たくさんの人にパンフレットを渡し内容についても話すことができて良かった。次回はもっと積極的に外国人の人にパンフレットを渡していきたい。緊張せず断られてもめげずに頑張りたい。

・外国人観光客に向けてパンフレットを配って、パンフレットのことを実践的に英語で話せて良かった。次回はもっと自分から積極的に話していきたい。パンフレット以外の話もしてみたい。

・パンフレットを全部渡すことができ、喜んでくれる人が多かった。スノーモンキーを目的に来ている人が多かった。色々な国の人が来ていたが、少しは英語で話すことができて嬉しかった。次回はもう少し英語で積極的に話し掛けに行きたい。

高校生の声

・前回に比べてたくさんの方に声をかけることができた。前半は少しためらいがあり、近くを通った外国人に声をかけることができなかったが、少しずつ慣れてきて色々な人に声を掛けることができたし、チームで配布していたガイドブックも手持ち全部を配り切ることができた。前は外国人を見かけただけで足がすくんでしまい一歩も踏み出すことができなかったけれど、今回はしっかり踏み出せたと思う。質問も少しだけすることができた。次回はもっと話せるように頑張りたい。外国人の英語は早くて全く聞き取ることができなかった。リスニング力を鍛えておきたいと思った。

・今までで一番多くの外国人に話しかけることができた。笑顔で受け取ってくれる人も断られた人も色々な方がいて、国が違くとコミュニケーションが難しいなと感じました。前回どうよ長野駅に行ったのですが、新幹線の改札口が特に多く、団体や家族連れで来ていくところに行くのがチャンスだなと改めてわかりました。何回か断られたショックでしたが、チームで諦めず積極的に話しかけることができて嬉しかった。前回よりも会話が続けられなかったのも、次回は自分たちから質問したりオススメの食べ物を伝えたりできるといいんじゃないかと思い積極

的に行動しようと思った。

・今日はたくさん外国人に出会うことができた。駅の改札口や路上などいろんなところで、前回よりもかなり多く声がけにチャレンジできたので、その分スルーされたり住んでいる方だったりする場合も多かったけれど喜んで受け取ってくれる方もたくさんいて、すごく充実した2時間だったと思います。明るい挨拶と説明で怪しまれることはなかったのが良かった。最後の最後までチームで協力して、今回初めて全冊配り終えることができてとても嬉しかった。次回に向けては、話しかける積極性はだいぶ身につけてきたと思うので、もっと楽しく続きの会話ができるよう



にしたいので、事前に練習して外国人が困惑したりすることのないよう英語を話せるようにしていきたい。

・前は全然自分から私に行くことができなかつたけれど、今回は自分から声をかけて渡すことができ嬉しかった。最初はスルーしたけれどだんだん声をかけていく回数を増やしていくうちに自分から積極的に声をかけることができました。持っていたガイドブックをセべて渡せたのが良かった。外国人に「オススメは何ですか？」と聞かれたので、次は事前に考えておきたいです。挨拶をした後「どこに行くのか？」聞いてからガイドマップの説明や会話をを行った方が、渡すか渡さないかを把握できて良いと思った。

・今日は初めてパンフレットを全部渡すことができました。活動を初めてすぐには勇気が出せなかつたけれど、やっていくうちにどんどん声をかけられました。冬ということもあってスノーモンキーを見に来た人が多かったです。いろんな話ができ嬉しかったです。一緒に高校1年生と中学3年生も英語で質問していてすごかったです。次回は初めから積極的に行けるともっといいなと思いました。もっと防寒対策をしてくればよかったと感じました。

・前回よりも緊張せずパンフを渡せた。会話を続けるのはやはり難しいと感じた。アジア系の方にも渡したが、お金を取られるやつだと思ったのか受け取ってもらえなかつた。機械はもっと会話を広げられるように挑戦したい。

・今日ガイドブックを渡すボランティアに初めて参加する二人の子と一緒に行動したけど、二人が積極的にガイドブックを渡してくれた。何回か外国人の方が忙しくて受け取ってもらえないことがあったけれど、話しかけることができ良かった。渡したあとガイドブックを見ている姿が見れて嬉しかった。次回は積極的に声がけをして全部配布したいと思う。

RCメンバーの声

・ロータリーの旗とビブスを着てPRできた。回数を重ねて皆さんとても上手になってきた。ロータリーのホームページにアップし情報発信したい。

・まだまだシャイで積極的な子ばかりではなかつたが、いずれも良い体験になったと思う。

「Excuse me ?」から入ることが必要。あらかじめパンフを見せながらアプローチすることで怪しまれない。マスクは外し大きな声でかけることが重

要。自らはソフの中身を把握しておくこと。せっかく作った質問集を練習しておけばよかった。湯田中など長野に泊まらないという理由で受け取らない方がいた。長野市が中継点としてしか認識されていないと感じた。ドイツの方に最後にインタビューし、「とてもわ



かりやすいイングリッシュだったよ。ドイツの中学生より上手だった！」と褒められた方もいた。

来長した方の国：Russia Australia England Germany 中国 台湾

- ・ 第5回 2月15日（土）中学生5名 高校生4名 先生2名 RC4名

各地の降雪量も大量にあり、本格的なウインタースポーツシーズンの真っ只中でのインバウンド向けまち歩きガイド“HELLO NAGANO”最終回。参加学生の意気込みも笑顔から滲み出て期待大！



中学生の声

- ・ 観光客の中でもオーストラリアから来る人が多くて、帰りの新幹線を待つ人が多かった。今回2回目で最終回だったけれど参加できてよかったです。
- ・ 長野市内のガイドブックだったので、数人の外国jんに「大丈夫です」と言われた。「フリー（無料）」を加えることで受け取ってくれる人が植えた。新幹線の出入り口に入れば多く配ることができると思った。前回よりも多くの外国人に話しかけることができた。
- ・ 今回長野駅での活動でスキーや地獄谷の猿を見るために来る観光客が多くいて、緊張したけどしっかりとパンフレットを配ることができてよかったです。今回気づいたことは、ツアー観光や家族連れの観光客が前回よりも多くいたこと。今年度2回参加してパンフレ

ットを配ったが、季節によって人の数が違うことがわかり、長野は夏・冬が一番観光客が多いんだなと思った。部活動のお陰で気軽に英語で話すことができたと思う。

・今回は配るパンフレットが数部残ってしまったけれど、今回は全て配ることができてよかったです。前回よりも外国人に話しかけやすかった気がしました。白馬に行こうとしてバスを待っている外国人は、パンフレットを受け取ってくれることが分かり、渡した外国人がそのパンフレットを読んでいたのが良かったです。

・笑顔で勇気を持って話しかけることが大切だと思いました。売っているものだとおぼれやすいから、無料だということを伝えるのが大切だと思いました。宗教か何かだと思われる感じがしたので、名前や自分がどういう人で何をしているのかパッと見でわかるようにしたらいいのかなと思いました。オーストラリアの人が多かった。日本人の小学生に英語で話しかけたら英語で返ってきたのにはビックリした。もっと外国人の知りたいものをパンフレットにしてみたいと思いました。日本人の大人の方から「とても良い活動で、いい経験になる」と褒められました。

高校生の声

・今回はスキーの時期ということもあってか、今までで一番多くの外国人に出会うことができました。最初から割とスムーズに声をかけられ自分の英語がちゃんと通じているなと実感できた。善光寺に来ている人は、御朱印を集めていたり、日本に興味・知識のある人が多く、みんな優しく話しやすかった。先輩と協力して会話したので、話が止まることなく少なくて良かったと思う。笑顔で相手の目をしっかり見て自分の言いたいことをはっきり言うことが本当に大事だなと思った。オススメの店や何かの墓所など案内できる文が言



えたらもっと良かったと思う。英語で話しかけることに抵抗が全くなくなったので、後はやはりタイミングや外国人とのコミュニケーション力だと感じた。この活動を通してネイティブの人との会話を体験できたり、違う文化の人と話すのは本当に面白いと思えたので良かった。

・いつもより外国人観光客が多くてビックリした。いつもはパンフレットを渡すのにもたっている時間が長いけど、今回は積極的に渡せることができた。外国人にパンフレットを渡す時、みんな笑顔で真顔の人はいないと思った。やっていくうちに自信がついて積極的に渡せるようになったので良かった。英語のレポーターも増えたと笑顔を意識するようになったので良かった。

・最初の頃と比べると外国人に声をかけるハードルがかなり小さくなった。前よりも出身・来た回数・理由などいろいろなことを話せた。途中で聞き取れなかった時は、なんとなく頷いてみたり笑顔でごまかしたりしてしまったのもっと頑張りたいと思った。この活動を通して地元のことをもっと知ろうという気になったり、もっと英語をしゃべれるようになりたいと思ったのでこれからは繋げていきたい。今日は今までで一番外国人がいた！晴れていて歩きやすかった。

・今日の活動前に言われた「笑顔」で話しかけるということを心掛けて行うことができて良かったし、前回よりも話しの話題を増やして会話もすることができたので良かったと思います。3回参加してたくさんのインバウンドの方々にパンフレットを渡して、普段英語で会話することが中々ないのですごく不安だったけど、自分で言うことを考えて話しかけることができました。この活動を通して英語に少し勇気を持てた気がしました。これからも英語を楽しみながら学んでいきたいです。



「“HELLO NAGANO”まち歩きガイドマップ」プロジェクト

反省会議

2025年3月26日

1、開催時期について

今期6/15、8/17、10/13、12/7、2/15の5回でしたが、3回まではインバウンド客の数が少なく外国人とコミュニケーションをとる場が少なかった。さすがに12月・2月は多く様々な国の方々と話す機会を作れた。来期は初めの1回は10月にワークショップ的に「話すシミュレーション」と対面での「笑顔の作り方」などを学び、2回目以降を11月から2月までの月一で「まち歩きガイドマップ」プロジェクトを実施するのが効果的であるという意見が多かった。

2、配布物について

今回無償提供いただいた「古き良き未来地図（英語版）」と「食旅NAGANO（英語・中国語版）」の2種類を配布したが、袖山会長エレクトからの提案で長野の文化や歴史、善光寺をはじめ神社仏閣を紹介するような冊子もいいのではないかと提案があり、特にインバウンド客は歴史や文化・芸術などに興味を持っており、中には善光寺で御朱印を求めている外国人もいたりして、長野をいい感じで紹介できるのではという意見が出ました。またそれを生徒が配ることで自分たちも紹介するには地元を理解していないと話せないで、地元理解に資すると思うからその方向で制作することに決まりました。

3、当該生徒について

今期はクラブインターアクト活動の関係で、文化学園長野中学高等学校インターアクト部をメインに活動しましたが、他の高校にも声がけすることもありではないか、という意見が出た。次期交換留学生の長野西高等学校国際教養科があるのでそれも良いのではないかと。青少年奉仕の観点からも他学校があるので声がけして参加を促すことは良いと思う。

4、次期以降のプロジェクトについて

- ・ガイドブックの活用を追いかけてみたい
- ・急に声がけすると驚き「何か売られるのでは？」と誤解され怪しまれるので、無料ガイドであることが一目でわかるビブスがあれば良いのではないかと、また駅のインフォメーションでも配布しているのでコラボし、ガイドを買って出てはどうだろうか
- ・今の時代なので紙媒体ではなく、デジタル版をQRコードで入ってもらえるようなポータルサイトなどを考えてみましょう
- ・次年度はもうすでに申請してあるので難しいが、今回気が付いたのですが白馬方面やスノーモンキーへの外国人客がとても多く、その方達にそれぞれの訪れる観光案内や食文化などを紹介するものがあれば、行く道中で読んでいただけるのではないかと。また観光地で長野の紹介冊子を配ることもありだと思しますので、次々年度には他のクラブと共同プロジェクトを組むことも視野に入れて次期を実施していきましょう。

◆全5回のプロジェクト終了後 生徒代表者の声

「Hello NAGANO」

「長野駅周辺の訪日外国人旅行者(インバウンド)に、

英語で書かれた長野市情報誌を配布して

長野の良い思い出のワンシーンにしてもらおう」

文化学園長野中学 3年 山田夏鈴

この活動を通して私は、ある関係性について考えています。その関係性というのは、笑顔、勇気、そして経験の三角関係です。海外の方は、知らない外国人に話しかけられた時「笑顔」がなかったら?ちょっと怖いと感じるでしょう。では、笑顔だけだったら?会話は生まれず何も始まりません。そこで大事なものは「勇気」です。勇気があれば笑顔で話しかけられます。しかし、笑顔と勇気だけではどうにもならないこともあります。その時に必要になるのは、「経験」(慣れ)です。経験があるだけで安心して緊張が解れ、自然な笑顔で話しやすくなります。

そして経験は、話の種になるので色々な会話を楽しめますし、臨機応変に対応することもできます。1つ1つの活動を自分の物にすることは、とても大切なことです。私達は幸運なことに、先生や支援してくださっている周りの方たちに恵まれているため、貴重な体験をたくさんさせてもらっています。これらの体験を少しでも価値の高いものにするために、PDCAを繰り返し、たくさんのActを積み上げていくことが大切だと思います。

Bunka Gakuen Nagano Jr3 Yamada Karin “Hello NAGANO”

I want to write a free magazine about Nagano City written in English to foreign visitors (inbound) around Nagano Station so that they can make a good memory of Nagano as one scene.

Through this activity, I am thinking about a certain relationship. This relationship is a triangle of ‘a smile’, ‘a courage’, and ‘an experience’. What do you feel when you are spoken to by a foreigner who has no smiling? You would feel a little scared, right? And if you have only a smiling face, we may not start a conversation, nothing would ever get started. What is important is “a courage”, I think. If you have a courage, you can talk to them with a smile. But we sometimes fail. Yes, only a smile and courage are not enough. We need “experiences”. Experiences can let you relax and make it easier to speak with a natural smile. It is very important to make each activity your own. We are fortunate to have many valuable experiences. Thanks to my teachers and the Rotary Club’s members. They support us to make these experiences.

It is very important to repeat the PDCA cycle and try them a lot. I will do my best!

「Hello Nagano に参加して」

文化学園長野高校 2 年部長 平林 美紅

私は 3 回 Hello Nagano に参加させていただいたことで、より英語力が身についたと感じています。1 回目の時は、観光客の方を見つけても中々声をかけることができずにスルーしてしまい、すごく悔しい思いをしました。しかし、2 回、3 回と回数を増やしていくうちに、だんだんと自分から声をかけることができるようになり、外国人観光客の方とコミュニケーションもとれるようになりました。声のかけ方は”Hello”や”Hi”など簡単な挨拶からはじめました。フレーズを自分で考えながら話すことは大変でしたが、観光客の方に助けて貰ったり、友達に聞いたりして伝えることができました。

普段海外の方と話す機会がないので、最初は不安でしたが、慣れていくうちに会話が弾んで、どんどん楽しくなっていました。英語は話せると話せないとでは全然違いますし、長野には多くの外国人観光客の方々が訪れるので、これからも英語をしっかりと学んでいきたいと思っています。また、学校でも楽しみながら英語の授業を受けようと思います。最後に、長野東ロータリークラブの皆さん、私たち高校生、中学生に貴重な経験をありがとうございました。

Chief of I.A.C. Bunka Gakuen Nagano Junior and High School Miku Hirabayashi

“Participating in Hello Nagano”

I have participated in ‘Hello Nagano’ three times, and I feel that I have improved my English skills. However, after two or three times, I could gradually become talking to foreigners and communicate with them. I started with simple greetings such as “Hello” and “Hi. It was difficult to think of phrases by myself, but I was able to communicate with foreigners with their help and by asking my friends.

I was anxious at first because I didn't usually have the opportunity to speak with people from overseas, but as I got used to the conversation, it became happy more and more. Speaking English makes all the difference between speaking English and not speaking English, and since there are many foreigners visiting Nagano, I would like to continue to learn English harder. I will also enjoy taking English classes at school.

Finally, I would like to thank the members of the Nagano East Rotary Club for the valuable experience for us.

◆全5回のプロジェクト終了後 先生の感想

地域の魅力を世界へ発信 ～生徒たちの挑戦と成長～

Hello Nagano の活動として、長野を訪れる海外の観光客に向けて、中学生・高校生が長野の食に関するパンフレットを配布する取り組みを行いました。この活動は、ロータリークラブの理念である「地域を知り、地域に貢献する」ことに合致しており、生徒たちは地域の魅力を発信しながら、奉仕活動を実践する機会を得ました。地域を知るとは、単に情報を得るだけでなく、その価値を自らの言葉で伝える力を養うことにもつながります。本活動では、生徒たちが長野の食文化について学び、それを観光客に伝えることで、地域の一員として貢献する意識を高めることができました。

活動当初は、多くの生徒が外国人に話しかけることに緊張し、パンフレットを渡した後すぐに戻ってきてしまう様子が目立ちました。「Excuse me.」と声をかけても相手に届かなかったり、目を合わせることも難しいと感じる生徒もいました。しかし、回数を重ねるごとに状況は変わり、生徒たちは自らフレーズを考え、会話を続けようとする姿勢を見せるようになりました。最初は「Excuse me. This is a pamphlet about Nagano food.」と決まりきったフレーズを使うだけでしたが、慣れてくると「Have you tried any Japanese food yet?」や「This pamphlet introduces local specialties like soba and apples.」など、自分なりの表現で積極的に伝えようとする様子が見られました。ある生徒は、観光客がパンフレットを受け取った後に「Thank you! I love Japanese food.」と笑顔で応えてくれたことが嬉しく、そこからさらに会話を続けようとして挑戦する姿が見られました。また、別の生徒は、一度断られた後に「It's free!」と伝え直すことで、相手の反応が変わり、受け取ってもらえた経験を通じて「伝え方を工夫する大切さを実感した」と振り返っていました。こうした小さな成功体験が積み重なり、生徒たちは徐々に自信をつけていきました。活動の中で、日本と海外の文化の違いについても学ぶ機会がありました。日本では無料で配布されるパンフレットを受け取ることに抵抗を感じる人は少ないですが、海外ではフリーであることを明確にしないと、売りつけられるのではないかと警戒されるケースがありました。「This is free.」や「It's a gift.」と伝えると安心して受け取ってもらえることがわかり、生徒たちはその場で伝え方を工夫するようになりました。また、日本のように相手が話し終わるのを待つ文化とは異なり、観光客の中には話しかけられる前に通り過ぎてしまう人もいたため、タイミングよく声をかけることの重要性も学びました。特に、ヨーロッパからの観光客は積極的に会話をしてくれることが多い一方で、アジア圏の観光客は比較的慎重な姿勢を見ることがあり、生徒たちは相手に応じた対応を考えるようになりました。

さらに、活動を通じて長野の観光客の傾向を分析した結果、冬の方が海外観光客の数が多く、より効果的に活動できることがわかりました。特に、白馬や地獄谷温泉といった世界的に有名な観光地は、多くの訪日外国人が目的地として訪れる場所であり、今後の活動の場として検討する価値があります。長野市内だけでなく、より多くの観光客と接する機会を得るために、こうした地域と提携し、活動の輪を広げることが求められます。実際に、白馬ではスキーやスノーボードを楽しむ欧米圏の観光客が多く、日本文化への関心が高い層も見られるため、より深い交流が期待できます。今後は、観光シーズンや訪問者の特性を考慮し、戦略的に活動の計画を立てていく

ことが必要です。

本活動を通じて、生徒たちは地域の魅力を発信しながら、自らも成長する貴重な機会を得ることができました。単にパンフレットを配布するだけでなく、観光客との交流を通じて、言語だけでなく文化の違いを学び、対応力を身につけることができた点は大きな成果です。最初は緊張していた生徒たちが、回を重ねるごとに堂々と英語で話し、笑顔で交流する姿に、大きな成長を感じることができました。今後もロータリークラブの理念に基づき、地域を知り、地域に貢献できる場を広げながら、より効果的な活動を展開していきたいと考えています。

<英語版>

Spreading the Charm of Our Region to the World! Students' Challenges and Growth

As part of the "Hello Nagano" initiative, junior and senior high school students distributed pamphlets about Nagano's food culture to international tourists visiting the area. This activity aligned with the Rotary Club's philosophy of "knowing the community and contributing to it," providing students with an opportunity to promote the region while engaging in volunteer work. Learning about their community is not just about gaining information; it also helps students develop the ability to communicate its value in their own words. Through this activity, students deepened their understanding of Nagano's food culture and strengthened their sense of belonging by sharing it with visitors.

At the beginning of the activity, many students felt nervous about approaching foreigners, often handing over the pamphlets and quickly retreating. Some struggled to make eye contact or found it difficult to get their voices heard when saying "Excuse me." However, as they gained more experience, their approach changed. They began to think of their own phrases and made efforts to continue conversations. Initially, they relied on set phrases like, "Excuse me. This is a pamphlet about Nagano food." But as they became more comfortable, they started using their own expressions, such as "Have you tried any Japanese food yet?" and "This pamphlet introduces local specialties like soba and apples."

One student was delighted when a tourist accepted the pamphlet and responded with "Thank you! I love Japanese food." This experience encouraged them to continue the conversation. Another student, who initially faced rejection, realized that adding "It's free!" changed the tourist's reaction, making them more willing to accept the pamphlet. Through such small but meaningful successes, the students gradually gained confidence in their communication skills.

This activity also provided an opportunity to learn about cultural differences between Japan and other countries. In Japan, people usually accept free pamphlets without hesitation, but in some other countries, tourists may be cautious, fearing they are being persuaded to buy something. Students learned that saying "This is free." or "It's a gift." reassured tourists, making them more willing to accept the pamphlets. Additionally, unlike in Japan, where people often wait for others to finish speaking, some tourists walked past before students could approach them. This taught students the importance of timing in communication.

Furthermore, through this experience, students observed differences in how tourists from different regions reacted. European tourists were generally more open to conversations, while some Asian tourists tended to be more reserved. This helped students develop an awareness of how to adjust their approach depending on the person they were speaking to.

Through analyzing the trends of tourists in Nagano, students also discovered that winter attracts a higher number of international visitors, making it a more effective time for this activity. World-famous tourist destinations such as Hakuba and Jigokudani Monkey Park are popular among foreign travelers, making them potential locations for future activities. Expanding beyond Nagano City and collaborating with these areas would provide students with more opportunities to interact with international visitors. For instance, in Hakuba, many tourists from Western countries visit for skiing and snowboarding, and they tend to have a high interest in Japanese culture. This suggests the potential for even deeper cultural

exchanges in the future. To enhance the impact of this activity, it will be important to plan strategically based on tourism seasons and visitor characteristics.

Through this initiative, students had the valuable opportunity to promote their community while also growing as individuals. It was not just about distributing pamphlets; it was about engaging with tourists, learning about cultural differences, and developing adaptability. While they started out feeling nervous, they gradually gained confidence, eventually speaking in English with ease and interacting with tourists with bright smiles. Moving forward, we aim to continue expanding activities in line with the Rotary Club's mission of learning about and contributing to the community, ensuring even greater impact in the future.

